

令和4年度

事業報告書

特定非営利活動法人地球の友と歩む会

1 事業の成果

■海外協力事業：インド共和国

農村の貧困世帯へ支援を行う現地 NGO：REYDS が資金調達や事業の実施などを自立して法人運営ができていることを確認した。また同じ州にて農村の貧困世帯の女性が運営する自助グループによる教育ローンの運営が自立して運営が出来ていることを確認した。

■海外協力事業：インドネシア共和国

3年振りに現地視察をした。スンバ島にて実施している支援については、栄養改善支援では小児科医、マングローブ植林支援ではマングローブの専門家が同行し事業を視察し評価を行った。飼料用トウモロコシの栽培支援については種まきの時期が遅れ収穫が間に合っていないが、トウモロコシ自体は順調に生育していることを確認した。

バリ島で行った給水支援は無事に終了し、この支援に対して第25回日本水大賞国際貢献賞を受賞した。

■海外交流事業：インドネシア共和国

3年振りにスンバ島マングローブ植林ツアーを実施し、日本人と地元の小学生と一緒に植林活動に参加した。

■国際理解促進事業：日本国

外部団体が実施するイベントに複数回出席し、日本人向けに活動の紹介を行った。またボランティア会を複数回実施し、多くの方が参加し国際理解を広めることが出来た。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【13,664】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
海外協力事業	支援事業【インド共和国】 ① 貧困農家を対象とした有機農業の支援 (支援は2019年12月1日～2020年11月30日に実施しフォローアップを2020年12月1日から開始) 活動背景： 1年を通して農業で生計を立てることが難しく、町へ	通年	インド共和国 タミルナドゥ州 ディンディグル県 マンマラスパティ村	1名	インド共和国 タミルナドゥ州 ディンディグル県 サナルパティ地区 マンマラ	142名	12,478.6

<p>男性が日雇い労働に従事しても生活が安定しない農家が多い。借金をして化学肥料を購入しても生活が苦しいままというケースもある。</p> <p>そのためインド人が運営する貧困支援を行う NGO と共に、現金に頼らない身の回りの自然物を活用した伝統的な農業を採用し、農業研修や農業を行うための基盤整備などを実施してきた。</p> <p>活動目的： 貧困世帯の農家が研修を受けて収入の向上等が認められた。現地 NGO：REYDS を通じて農家が自立して農業が出来ているかのモニタリングおよびフォローアップを行った。</p> <p>活動内容： 2022年8月に2か村を視察。</p> <p>マンマラスパティ村では掘削井戸3基が故障して放置されていたことが判明。修理部品代を供与。2023年2月に3基の掘削井戸の修理が完了、取水ができたことを確認できた。また故障に備えた体制作りの提案を行った。</p> <p>農家が行う有機肥料づくりと施肥の実施状況についての調査を実施した。</p> <p>各農家とも有機肥料づくり、主に牛糞を用いて作成、施肥を行っていることを確認した。</p> <p>農作物の生産量は支援前に比べて2～4割の増加が認められた。</p> <p>貧困農家への支援を行う、現地 NGO：REYDS が行う支援や法人運営について確認し、今後の農家への支援については現地 NGO が中心となって行うことで意見を一致させた。</p>		<p>および S・バラ ス村</p>		<p>スパティ 村 および S・バラ ス村</p> <p>以上の 2ヶ村の 住人</p>		
<p>②女性の職業訓練支援</p> <p>活動背景： 女性が村の外に出て仕事をすると村八分にされたり、実の両親であっても離縁されたりするほどタブー視されている。村の中で仕事がないければ収入を得られないという問題がある。 そのため現地 NGO：REYDS と</p>	<p>通年</p>	<p>インド共 和国 タミルナ ドゥ州 ディンデ イグル県 サナルパ</p>	<p>1名</p>	<p>インド共 和国 タミルナ ドゥ州 ディンデ イグル県 サナルパ</p>	<p>20名</p>	

	<p>協力し、農業で生産した作物を加工して付加価値をつけて販売するための研修などを実施してきた。</p> <p>活動目的： 女性の現金収入の手段が少なく困窮からを脱却するために新たな現金収入に結び付く技能研修を設ける。</p> <p>活動内容： 現地で需要があり高値が付きやすいマッシュルームの栽培や管理について研修を実施。 栽培したマッシュルームは有機農産物取扱店やホテルで試験的に販売が行われた。</p> <p>この支援は現地 NGO : REYDS の財源によって計画から実施までを行い、女性が研修を受けてキノコを生産でき、試験販売の実施を確認できた。</p>		<p>ティ地区 マンマラスパティ 村 S・バラ ス村</p>		<p>ティ地区 マンマラスパティ 村 S・バラ ス村</p> <p>以上の2カ村にある女性 自助グループに所属するもの</p>		
	<p>③ SHG による教育ローン運営支援 (2012 年開始)</p> <p>活動背景： 支援地域では貧困家庭であっても教育に対する期待が大きい。中学校までの進学率は 9 割以上だが高等教育への進学は経済的な理由で諦めている貧困農家は多い。農業を営む貧困世帯への支援を行う、インド人が運営する NGO と協力して支援を行ってきた。</p> <p>活動目的： 女性の自助グループ (SHG) を村の中で組織し、教育ローン制度を運営し、農村家庭の進学率を高める。教育ローンの運営を SHG で自己運営できるまでサポートを行った。</p> <p>活動内容： SHG が教育ローンを運営できることを確認できた。今までともに活動してきた NGO は運営者の高齢化と継承者不足等の問題があるため、SHG への助言等の支援は別の団体等が行うことで一致した。また今後の SHG 等の支援については現地 NGO へ移管しすることも一致した。</p> <p>2022 年 12 月末時点で 83 名</p>	<p>通年</p>	<p>インド共和国 タミルナドゥ州 ディンディグル県 ニラコタイ地区</p>	<p>2 名</p>	<p>インド共和国 タミルナドゥ州 ディンディグル県 ニラコタイ地区</p> <p>3 つの SHG ウタヤム連合、 スリ・ムタランマン SHG、 アンナイ・ムタランマン SHG</p>	<p>83 名</p>	

<p>が受給し、高等教育へ進学し就職の機会を得ることが出来た。</p>					<p>パピナヤ ッケンパ ッティ連 合</p> <p>以上4つ の SHG に 所属する 女性の子 供</p>		
<p>支援事業【インドネシア】</p>							
<p>① スンバ島での植林推進 (2015年に開始)</p> <p>活動背景： スンバ島はかつて香木の白檀の輸出で栄えた島だが現在は島の9割が草原化している。無計画な焼き畑や家畜の放牧、生活のための伐採などが原因と言われている。</p> <p>活動目的： 沿岸部も内陸部と同様に森林が減少しているため、インドネシア人が運営するスンバ島の貧困対策を行う現地 NGO: ラジオ MAX と協力してマングローブの植林を進める。</p> <p>活動内容： 既存のマングローブから種を1,000個摘み取り、種から育苗し植林した。日本からマングローブの専門家が渡航しアドバイスを受けた。今年度は0.7haを植林した。(植林ツアーを実施したが詳細は海外交流事業を参照) 活着率は79%で漂流物との衝突が活着率低下の主な原因だが他にも放牧している豚が干潮時に食していることなどが分かった。 苗木の盗難は現地 NGO が注意を払った結果、今年度は発生しなかった。</p>	<p>通年</p>	<p>インドネ シア共和 国</p> <p>スンバ島 東スンバ 島</p> <p>ワラキリ 海岸</p>	<p>1名</p>	<p>インドネ シア共和 国</p> <p>スンバ島 東スンバ 島</p> <p>ワラキリ 海岸の周 辺住民</p>	<p>300名</p>		
<p>② スンバ島栄養改善支援 (2021年から開始)</p> <p>活動背景： スンバ島東部の農村部では</p>	<p>通年</p>	<p>インドネ シア共和</p>	<p>1名</p>	<p>インドネ シア共和 国</p>	<p>1000人</p>		

	<p>主食のトウモロコシ以外の作物を伝統的に栽培する習慣がない。野菜は島外から購入していた。森には1日1食の夕食のみが多い。</p> <p>活動目的： 東スンバ島農村部の貧困家庭の栄養不足を改善する。ライパンダック村をモデルの事業地とし、様々な栄養素を摂取できるよう野菜作り指導の他、大豆作り、果樹の植林、いけすでの魚の養殖を行う。また、大豆や魚は加工品作りも指導する。村で生産されたものは販売して、村人の収入源とし、事業継続の資金にもする。この支援は現地 NGO：ラジオ MAX の協力で実施。</p> <p>活動内容： 有機野菜の栽培に加えて、新たにいけすを作り魚の養殖を行った。また、パパイヤの苗木を植林し、有機肥料を与えて育てた。月に一度対象児童に昼食を提供した。定期的に対象児童の身長と体重を計測した。現地で正しい身体測定が定着するよう、ポスターとビデオを作成した。日本から小児科医が渡航し、対象児童の栄養状態を診た。子どもたちが栄養改善プロジェクトに参加できることを感謝する詩を朗読する発表会を行った。</p> <p>参加者の村人に何度もクイズを出すことにより有機農業のやり方が定着してきた。定期的に身体測定を行うようになり体重が増えないなど健康状態に注意が必要なお子さんがいることがわかった。小児科医の視察では大きな問題はなかったが、対象児童 20 名のうち約半数がキャリパーで脂肪をつかめない状態だったので、来年度も引き続き成長過程を把握していく。また、栄養状態以外にも虫歯やしらみ、大きな傷跡が残る児童が複数いることが判明した。</p>		<p>国</p> <p>スンバ島 東スンバ 島</p> <p>ライパン ダック村</p>		<p>スンバ島 東スンバ 島</p> <p>ライパン ダック村 に住む子 供とその 家庭</p>		
<p>③ スンバ島農村部の所得 向上支援</p> <p>活動背景：</p>		<p>通年</p>	<p>インドネ シア共和 国</p>	<p>1 名</p>	<p>インドネ シア共和 国</p>	<p>15 人</p>	

	<p>インドネシアでは年収4万円ほどが貧困水準だが、スンバ島では年収1万円程度の村民が珍しくない。スンバ島東部では伝統的に主食のトウモロコシを栽培する農家が多く、インドネシア政府は世界的な飼料用トウモロコシの高騰を受けてインドネシア国内での生産を推奨している。</p> <p>活動目的： インドネシア国内で需要が見込まれる飼料用トウモロコシを販売し現金収入を得ることを最終目的とする。スンバ島内ではトウモロコシは売れる作物ではないため飼料用トウモロコシの需要に懐疑的な農家が多い。そのためモデル農家を選定し、需要があることを示すことを第一目標にする。事業継続の資金にもする。この支援は現地 NGO：ラジオMAX の協力で実施。</p> <p>活動内容： 栽培に協力するモデル農家が少なく東スンバ島で農業を営む計3軒の農家が協力してくれることになった。合計1ヘクタールの農地に飼料用トウモロコシを栽培した。有機農法によって育てられたトウモロコシは順調に成長している。</p>		<p>スンバ島 東スンバ 島</p>		<p>スンバ島 東スンバ 島</p> <p>3軒の 農家</p>		
<p>④スンバ島農村部の子ども支援</p> <p>活動背景： スンバ島の子どもたちは小学校に入学するまで文字に接する機会がほとんどない。小学校に入学して勉強として学ぶ文字は難しく、授業に興味を持たない児童が少なくない。</p> <p>活動目的： 日本のカラフルな絵本で文字に親しむことにより学校での授業をスムーズに受け入れることができ、学力が向上を目指す。この支援はスンバ島の県職員有志ボランティアと共に実施した。</p> <p>活動内容： 段ボール箱二箱145冊をスンバ島へ発送し、2月現地に到着した。現地の役人からは絵本の活</p>	<p>通年</p>	<p>インドネ シア共和 国</p> <p>スンバ島 東スンバ 島</p>	<p>1名</p>	<p>絵本製作 ボランテ ィア参 加： 日本国</p> <p>絵本受 取： インドネ シア共和 国 スンバ島 ワインガ ップ市周 辺児童お</p>	<p>絵本製作 ボランテ ィア 参加： 約100組</p> <p>絵本 受取： 約1万名</p>		

	<p>動は子どもたちの教育水準の向上につながるが、実際の村の子どものことや教員の調査がコロナの影響で終わっていないので、引き続き調査を続ける。</p>				<p>よび農村地域に所在する小学校児童</p>		
	<p>④ 東スンバ島 3 か村における農村開発支援事業調査</p> <p>活動背景： スンバ島東部でも貧困度が高いと言われる内陸部の村でどのような支援が必要かの調査。</p> <p>活動目的： 農業生産が極めて少ない150 農家を対象にして農業復興のための灌漑設備整備、有機農業の推進により農業生産性を上げ農業生産による生活改善、販売による収入向上をめざしていく。調査はインドネシア人が運営するスンバ島の貧困対策支援を行う現地 NGO：MARADA 財団の協力で実施。</p> <p>活動内容： 農業の基盤整備工事、生産予定の農作物の市場調査、支援農家のグループ活動や販売方法について現地 NGO と今後の支援計画等を意見交換および調査依頼を行った。</p>	<p>通年</p>	<p>インドネシア共和国 スンバ島東スンバ島 ハハル郡ムバタプフ村、 レワ郡カンバウンドウツ村および マタワイパワリ村の3か村</p>	<p>2名</p>	<p>インドネシア共和国 スンバ島東スンバ島 ハハル郡ムバタプフ村、 レワ郡カンバウンドウツ村および マタワイパワリ村の3か村の 貧困農家</p>	<p>151名</p>	
	<p>⑥バリ島給水事業</p> <p>活動背景： バリ島北部で水へのアクセスが困難な村との交流を持つ日本人ボランティアグループより協力依頼があった。スンバ島などで培った知見の提供および支援の助言を行うことにした。</p> <p>活動目的： 生活用水が使用できていない1,152 世帯 3,629 人を対象にして老朽化して水供給が困難な状況を改善していき健康で安全な生活が出来るようにする。治水機能向上のための住民主体の植林活動。および住人による水道の管理基盤の整備を行う。</p>	<p>通年</p>	<p>インドネシア共和国 バリ島 ブレンゲ県プダワ村の6集落</p>	<p>4名</p>	<p>インドネシア共和国 バリ島 ブレンゲ県プダワ村の6集落のうち 水の確保が難しい 貧困家庭</p>	<p>1,152 世帯 3,629 名</p>	

	<p>活動内容： 集金体制の構築、水道の維持管理仕様書の作成、水源に取水場の設置、配管の交換などを実施。本年度でプロジェクトは終了し、来年度は村での自己管理による運営がスタートする。</p>						
海外交流事業	<p>インドネシア共和国： スンバ島でのマングローブ植林ツアー</p> <p>活動目的： 日本人とインドネシア人との交流およびボランティアを通じた国際協力の活動。</p> <p>上記のインドネシア共和国にて実施した「①スンバ島での植林推進」の一環で実施。</p> <p>活動内容： 日本からの参加者2名と地元小学生約30名と一緒にマングローブの植林を実施した。苗木300～500本、約0.3haを植えた。</p>	10月28日に実施	<p>インドネシア共和国</p> <p>スンバ島東スンバ島</p> <p>ワラキリ海岸</p>	1名	<p>海外でのボランティア活動や国際協力に関心のある日本在住者</p> <p>ワラキリ海岸周辺の小学生</p> <p>ワラキリ海岸周辺の住人</p>	<p>日本からの参加者2名</p> <p>インドネシアからの参加者約30名</p> <p>植林によって恩恵を受ける受益者300名</p>	740.9
国際理解促進事業	<p><日本での活動></p> <p>①他団体等からの依頼</p> <p>6/8：NGO職員の働き方等の講演を千代田区にて実施。</p> <p>10/12：武蔵野市の大学の依頼で活動の紹介を行った。</p> <p>11/16：高知県の高校生(修学旅行生)向けに国際理解を深める講義を千代田区の会議室にて実施した。</p> <p>12/20：東京ボランティア市民活動センターの発行する情報誌に国際協力の活動について寄稿した。</p> <p>3/12：東京都主催のイベントに日本で出来るボランティア活動の紹介や国際協力の活動を紹介した。</p>	<p>講演・出演</p> <p>6/8</p> <p>10/12</p> <p>11/16</p> <p>3/12</p> <p>寄稿した</p> <p>情報誌の発行日</p> <p>12/20</p>	<p>東京都千代田区での実施</p> <p>2回</p> <p>東京都武蔵野市の大学</p> <p>1回</p> <p>情報誌の発行者住所：東京</p>	3名	<p>6/8</p> <p>NPOやNGOで働くことに興味がある市民</p> <p>約50名</p> <p>10/12</p> <p>国際協力に関心のある学生と大学</p>	444.7	

			都新宿区		関係者 8名		
			東京都江 東区のイ ベントス ペース1 回		11/16 国際協力 に関心の ある高校 生6名		
					市民活動 に関心の ある市 民・団体 100名		
					3/12 ボランテ ィアに関 心のある 市民 100名		
	②広報イベント等への出展 活動を伝える広報活動を実施した。	4/29	4/29 :				
	4/29 : メーカー中央大会		渋谷区		国際協力 に関心の ある市民		
	10/1~10/2 : グローバルフ ェスタ	10/12~					
	10/12~10/14 ボランティア ウィーク	10/14	10/1 ~				
	2/11~2/12 ふれあい満点市 場		10/2				
		2/11~	千代田区		4/29 100名		
		2/12					
			10/12 ~				
			10/14		10/1~ 10/2 300名		
			武蔵野市				
			2/11 ~				
			2/12		10/12~		
			新宿区		10/14		

					30名		
					2/11～ 2/12 30名		
	<p>国際理解を広げるためのボランティア・イベントの主催・活動参加呼びかけ</p> <p>①リサイクル寄付 ハガキや切手、本等のモノの寄贈呼びかけ</p> <p>②資金化ボランティア 切手の仕分けや集めた切手等を資金化しやすいように整理する活動</p> <p>③事務局ボランティア 動画の作成やイベントでの広報活動</p> <p>④絵本の翻訳貼りボランティア 日本の絵本にインドネシア語を貼り付ける活動</p> <p>⑤スンバ島ポンプ開発ボランティア 水へのアクセスが乏しい地域の住民がメンテナンスがしやすいよう現地で入手可能な材料や技術で再現できるポンプの開発活動</p> <p>⑥主催：広報イベント スンバ島小学生通学バッグ事業完了報告会の実施</p> <p>⑦主催：有料イベント 「サシレカさんにチキンビリヤニのレシピを教えてもらおう」インドの文化から支援を身近に感じてもらうイベントを実施</p>	①②③ ④⑥⑦	東京都千代田区を含めた日本全国	⑤ 東京都	3名	<p>国際協力に興味がある一般市民および団体等</p> <p>上記に加え④⑤はインドネシア共和国 スンバ島東スンバ島の水および本へのアクセスが乏しい農村</p> <p>① 100組 ② 50組 ③ 3名 ④ 90組 ⑤ 9名 ⑥ 10名 ⑦ 12名 スンバ島での受益者 ④⑤ 1万人</p>	

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)
	なし				